

環境に配慮した米の高値販売・販路拡大

たじま農協(兵庫県)

取組の概要

- 環境保全型稲作に取り組み、「コウノトリ育むお米」をブランド化。
- その結果、一般的な栽培法の米と比べて3~5割前後高い価格での販売や直接販売による販路拡大を実現。管内の水田で生息するコウノトリの数も増加。

事業化(プロジェクト化)成功のポイント

1 コウノトリの野生復帰を進める動きに合わせた無農薬・無化学肥料栽培

たじま農協は昭和61(1986)年から減農薬・減化学肥料の特別栽培米を生産している歴史があり、行政と民間が一体となったコウノトリの野生復帰を進める動きに合わせ、平成15(2003)年から無農薬・無化学肥料の米の栽培試験を開始。農薬不使用や水田の冬期たん水などによる独自の「コウノトリ育む農法」で生産。取組が進み、平成17(2015)年に5羽放鳥したコウノトリは平成30(2018)年には約140羽まで増加。

2 コウノトリ育むお米の普及・販売促進

「コウノトリ育む農法」のコンセプトの理解が進み、取組に参加する生産者が増加し、契約栽培の量も拡大。作付面積が大幅に増加したことで、販売量を大幅に増やしていく必要があった。そのため同農協では平成17(2005)年から全国でもいち早くインターネットを通じた米の販売を開始。スマートフォンの発達もあり、インターネットでの販売量が大幅に増加している。また、200t規模の大型サイロでは少数銘柄しか対応できないことから、1t規模の小型サイロを多数設置し、コシヒカリだけで約20種類の商品の集出荷が可能な体制を整え、細分化するニーズに対応。

環境保全米への消費者理解の促進のため、県内外の量販店の店頭等や消費者との交流会でPR活動を実施。東京・大阪の百貨店、量販店、沖縄の量販店等と確実に販売先は増加。東京都内にはアンテナショップも設置。直接販売の取扱高は、米の全体の販売高の30%にあたる11億円まで拡大。平成28(2016)年度から、シンガポール、米国などへの輸出も開始。

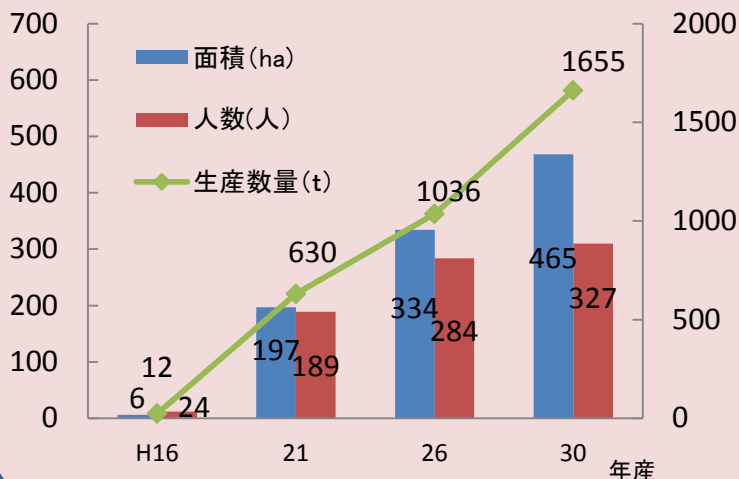
3 販売単価の向上

「コウノトリ育むお米」は一般的な栽培法の米と比べて減農薬米で1.3倍程度、無農薬米で1.5倍程度高い価格で販売。

取組の効果

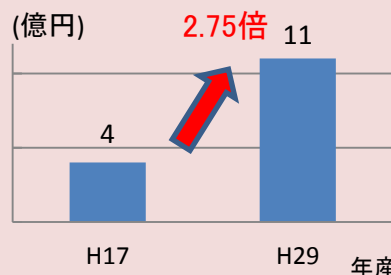
<「コウノトリ育むお米」の生産の推移>

○作付面積、生産者、生産量は年々増加



<直接販売米の取扱高>

○12年間で2.75倍の11億円に増加



<10a当たりの農家の手取り額比較>

○慣行栽培に比べ農家の手取り額は高い

慣行栽培 コシヒカリ	コウノトリ 育むお米 (減農薬)	コウノトリ 育むお米 (無農薬)
1.00	1.13	1.29